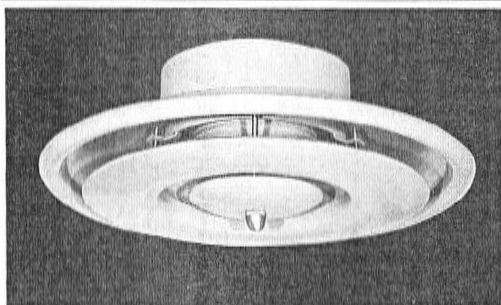


新晃工業のエアードィフューザなど 建築設備技術遺産に

新たに3件を認定

(一社)建築設備技術者協会(JABMEB、会長・野部達夫氏)は、このほど平成二十九年度の建築設備技術遺産として、これまでに認定した二十九件(特

別認定三件を含む)に加え、新たに三件を認定した。建築設備技術遺産認定制度は、建築設備部門の技術や関連情報、設備を建物に収めてきた技術を次世代に伝えるとともに、建築設備の技術、役割、文化を多くの人に広めていくことを目的とする。



新晃SR型エアードィフューザ

別認定三件を含む)に加え、新たに三件を認定した。建築設備技術遺産認定制度は、建築設備部門の技術や関連情報、設備を建物に収めてきた技術を次世代に伝えるとともに、建築設備の技術、役割、文化を多くの人に広めていくことを目的とする。

今回、認定されたのは、認定第二十八号「新晃SR型エアードィフューザ」(管理者・所有者「新晃工業」)、認定第二十九号「ホーム分電箱(BBK-3)」(管理者・所有者「河村電器産業」)、認定第三十号「TOTOMI ユーシウム所蔵の光電センサー」(管理者・所有者「TOTOMI ユーシウム」)。

「エアードィフューザ」は、その後オフィスのモジュールに対応した風量制御(△△)期における、個別完結性、良好な空調環境をつくるために開発された制気口。以

13業績が受賞の栄に

第5回カーボンニュートラル賞

(一社)建築設備技術者協会(JABMEB、会長・野部達夫氏)は、このほど第五回カーボンニュートラル賞の受賞業績と受賞者を決定した。建築関連十七団体による二〇〇九年十一月に提言された「建築関連分野の地球温暖化対策ビジョン2050」カーボンニュートラル化では、二〇五〇年の目標を達成に努めるすべての人々と共有し、低炭素社会の実現に向けた建築と都

市、地域のカーボンニュートラル化にともに取り組むことが謳われている。同表彰事業は、建築設備士が関わる業績に対し、その実現に向けた活動をカーボンニュートラル賞として表彰することを通じて、さらなる低炭素化へ向けた意識の浸透を図りカーボンニュートラル化社会の構築に寄与することを目的とするもの。

今回の受賞業績は、カーボンニュートラル大賞二業績、カーボンニュートラル大賞九業績(大賞含む)カーボンニュートラル賞支部奨励賞四業績で次の通り。



大賞を受賞した安川電機本社棟

【カーボンニュートラル大賞】▽北海道カス礼幌東ビル支店
【カーボンニュートラル大賞】▽安川電機本社棟における省エネによる環境負荷低減Ⅱ三菱地所設計九州支店
【カーボンニュートラル大賞】▽シテイホールプラザ「アオーレ長岡」市民協働型シテイホール(省CO₂への先駆的な取組)森村設計▽自然エネルギーを利用した低カーボン型社屋兼大林組名古屋支店▽YANMAR本社ビル、YANMAR LIVING-BUILDING、ZERO CO₂ Emission Build

ルにおける低炭素化の取組み▽山下設計▽次世代中小ビルに携わる環境負荷低減の取組みⅡ大和ハウス工業▽内陸性気候に適合した甲府市役所の環境・設備計画▽飯野ビルディングの環境・設備計画と実施工務
【カーボンニュートラル支部奨励賞】▽国見町庁舎木材の積極的利用による低炭素化Ⅱシェイアル東日本建築設計事務所▽地中熱と排熱を利用する複数建物間熱源水ネットワーク(杏林製薬わたらせ創薬センター)Ⅱ鹿島建設
▽特別養護老人ホームほろせいのBOP対策に配慮した低カーボン化事業Ⅱ葦機工業新潟支店▽立命館中学校・高等学校長岡京キヤンパスに携わる自然エネルギーを最大限に活かした環境配慮技術Ⅱ鹿島建設関西支店